

これまで様々な場面で、鳥獣被害対策は3つに大別されているとお話ししてきました。その3つとは「寄せない対策・入れない対策・捕まえる対策」です。

動物はすぐに隠れやすく、且つ食べたいものがある農地を好んで攻めてきます。周辺のアヤブを払い、動物にとってはエサとなるものを周りに残さないようにする対策が、寄せない対策です。入れない対策は、読んで字のごとく農地の中に入れないよう侵入を防ぐ電気柵や金網柵を設置する対策です。捕まえる対策は、被害を発生させている加害動物を捕獲する対策です。

被害が発生すると、みんな最初に思うことは「捕まえてほしい」と思います。でも、加害動物をすべて根絶することはできませんし、人が山の近くから離れるわけにもいきませんから、どこかで衝突が生じます。これは完全には治らない病気を抱えているようなものです。なので、今回は先の3つの対策を「薬」、鳥獣被害を「病気」、動物を「症状(痛み)」としてとらえてみます。それぞれの対策の使いどころを考えてみましょう。

● 捕まえる対策

捕まえる対策は「鎮痛薬」みたいなものです。痛みがひどい時に飲むと、一気に治まり、まるで病気が治ったかのように思います。でもあくまでも痛みを緩和しただけで、病気は治っていないので、また痛みが再燃することがあります。ただし、「治療薬」で症状を抑えていても、痛みが出る時は服用しなくても。

どの薬も必要ですが、問題なのは現時点の体(集落や農地)にはどの薬がもっとも必要かを見極めることです。気を付けていたきたいのは、この3つの薬に含まれない、でも入手しやすい「偽薬」が存在するという事です。一瞬効果があったように感じて長期的には効果がなかったり、効果があったと信じているだけで実際は効果がない薬があります。正しい薬を用法・用量を守って服用することが重要です。

病気(鳥獣被害)のことが分からない、薬を飲んでいるのに効果がないという方は、お気軽に日野郡鳥獣被害対策実施隊に受診(ご相談)ください。

● 入れない対策

入れない対策は「治療薬」です。症状が増悪するのを防ぎ、病気自体の進行を防ぎます。でも用法・用量を正しく用いないと効果がありません。治療薬を飲んでいるのに病気が悪化する場合は、受診するのが良いでしょう。

● 寄せない対策

寄せない対策は「サプリメント」です。直接的に痛みや病気に効果はないが、体内環境を整えます。そのため症状の発現を抑止する効果があります。クマやサルなどの症状がある場合は、その効果が分かりやすいが、それ以外の場合は効果はあっても地味すぎて分かりにくいのが難点。

捕まえる

入れない

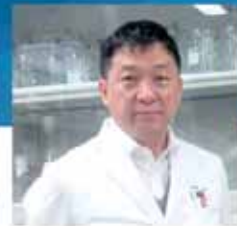
寄せない



同日野郡鳥獣被害対策協議会 電話:0859-72-1399

新型コロナウイルス感染症

教えてくださるのは、鳥取大学医学部ウイルス学分野 景山誠二教授です。



Q ワクチンを2回接種したら、新型コロナウイルスに感染しないの？

A ワクチンには高い感染抑制効果がありますが、100%ではありませんので、引き続き感染予防対策をお願いします。

現在国内で主流となっているデルタ株は、アルファ株と比較して約60%感染させやすく、重症化させやすく、ワクチンを効きにくくする性質を持っています。実際、アメリカでは、ブレイクスルー感染*によるクラスターが発生しています。

ワクチンのデルタ株に対する効果は、ファイザー社のワクチン2回接種の場合、アルファ株に対する防御率が93%であるのに対し、デルタ株に対しては88%であるとの研究結果があり、接種をしない場合と比較すると大きな効果があると言えます。

*ブレイクスルー感染とは：ワクチンを接種した後に、新型コロナに感染すること。ワクチン接種という防壁を突破して感染することを意味します。

Q 感染した場合、ワクチンを2回接種していた場合とそうでない場合に違いはあるの？

A ワクチンには重症化を防ぐ効果があり、2回接種によりその効果が高まります。

ワクチン接種により入院が必要な症状まで悪化する人は、接種していない人と比較して、1回の接種で75%、2回の接種で94%、少ないというイギリスの調査結果があります。

Q マスクは材質により効果が異なるの？

A 布やウレタンよりも、不織布マスクの方が効果が高いことが示されています。

効果の高いマスクを、すき間ができないよう顔にフィットさせて着用すること、会話は短時間で大声を避けることを心がけましょう。

同日野振興局 地域振興課 電話:0859-72-2086 FAX:0859-72-2072



表紙写真

タイトル:収穫の喜び

撮影者:日野町 松本 利秋

撮影者コメント:丹精込めて栽培した稲は9月、黄金色に実り収穫時期を迎える。近年コンバインによる刈り取りに変わり、稲架掛けによる天日干しはほとんど見かけなくなりました。が、食味が良いと言われ、家族総出で脱穀作業に当たられる姿から収穫の喜びが伝わってきました。江府町御机集落の棚田。大山西壁を仰ぎ、春の田植、実りの秋、また冬景色と、年間を通じ絶景スポットとして親しまれています。